

諏訪中 だより

多摩市立諏訪中学校

〒206-0024

多摩市諏訪5-12-1

ユネスコスクール認定校



令和5年10月26日 第6号

ICT 機器への対応力の育成

校長 相楽 敏栄

今月は授業参観（学校公開）、道徳授業地区公開講座、進路説明会、そして、音楽会へお越しいただきありがとうございます。

近頃は、朝晩の気温がぐっと下がり、季節の変わり目でもあり体調管理にも注意しなければならなくなりました。インフルエンザによる9月の1・2年生の学年閉鎖がありました。今月に入ってもインフルエンザが時折猛威を振るい、先日お知らせしましたように学級閉鎖を行わなくてはならない状況が出てきました。手洗い、状況によってはマスクの着用等がしばらくの間、必要になってくるかと思えます。諏訪小の齋藤校長先生とインフルエンザによる諏訪小の学校閉鎖を行うときに、り患状況について話す機会があり、諏訪小の児童の様子をお聞きしました。児童がマスクをしていない場合、インフルエンザに罹っている児童を中心に広範囲にわたって感染しているの、今回のインフルエンザは感染力が強いと実感していることを教えていただきました。

さて、1学期から、タブレット端末の持ち帰りの試用期間を設け、夏休みにも持ち帰りを実施しました。ご家庭での使用状況はいかがだったでしょうか。ご家庭からはタブレット端末の持ち帰りについて、特にご意見が出ませんでしたので、2学期からはタブレット端末の持ち帰りを希望されるご家庭は常時できるようにしました。どの学校でも常時持ち帰りについては取組んできたことではありますが、タブレット端末の使われ方が学校教育の視点では不適切な事が多く、やむなく止めるところもありました。本校でもタブレット端末の使用状況が学習本来の使い方ではなく、不適切な使い方が出てきた場合は、全体の使用を止めるのではなく、不適切な使い方をした生徒を指導しながら全体の持ち帰りは継続したいと考えています。現在の社会では、タブレット端末に代表される ICT 機器（PC 等）は事務機器であり、なければ仕事になりません。子どものうちから使用し、高校・大学でも学習等に効果的に使い、社会に出てからも ICT 機器を使いこなし、効率の良い働き方、自分の考えがうまく表現できるような資質能力を養い、将来に備えてもらいたいと思っていますからです。

一人一台のタブレット端末の使用は3年目になります。以前は全校で40台が配置され、主に総合的な学習の時間等の調べ学習やまとめ、技術科のプログラミング学習に使用していました。しかし、現在では授業参観の時にも見ていただいたように、授業を理解しやすいようなプレゼン画面が、ネットやWi-Fiを経由して生徒一人一人のタブレット端末やプロジェクタに配信されます。ミライシードという学習アプリや、デジタル教科書も一部使えるようになってきました。この3年間で、タブレット端末の使用状況は飛躍的に変化してきました。生徒が操作し、自分の考えをまとめたりするツールとしては、紙の上で書いて、違っていたら消し、書き込むという試行錯誤を何度も行って、充実した内容になってきました。3年前と別世界です。

現在、諏訪中では次の1～5のことを先生方は意識しタブレット端末を授業で使用しています。

1. 授業において、生徒の授業内容の理解に効果的な使い方。
2. 生徒の知識・技能の定着するための使い方。
3. 生徒の思考力・判断力・表現力を育成するための使い方。
4. 生徒の主体的に学習に取り組む態度を育成するための使い方。
5. 効率よく仕事をするための使い方。

さて、3年後、タブレット端末がどのような使われ方をしているか、生徒がどのように使っているのか、とても楽しみです。



数学の授業での様子